

ロシア

2006年のロシア極東経済

2006年、ロシア極東連邦管区の鉱工業生産は3.0%増となり、連邦全体の3.9%増を下回った。サハリン州(28.1%増)および沿海地方(12.1%増)は高成長率を記録したが、ハバロフスク地方(11.4%減)やマガダン州(13.5%減)は大幅減となった。

固定資本投資に関しては、殆どの連邦構成主体でマイナス成長を記録し、同管区全体では2.8%減となり、連邦全体の13.7%増をかなり下回ったが、沿海地方は7.7%増、ハバロフスク地方は4.8%増を記録した。

小売売上高は、連邦全体の13.0%増に比べ、同管区全体は11.7%増と下回ったが、サハリン州(18.9%増)やアムール州(13.7%増)、ハバロフスク地方(13.3%増)については上回っている。

インフレ率は、同管区全体で8.8%増に止まり、連邦全体の9.0%をやや下回った。しかし、サハ共和国(11.9%増)やカムチャツカ州(11.6%増)、サハリン州(10.4%増)、チュコト自治管区(11.2%増)に関しては、ロシア政府の2006年の目標値(10%未満)を達成できなかった。

実質平均賃金については、カムチャツカ州(13.7%増)のみ連邦全体(13.4%増)を上回る一方、同管区全体では8.9%増、沿海地方とサハリン州は共に11.0%増にとどまった。

2007年第1四半期のロシア経済

2007年に入り、ロシア経済の指標は順調な伸びを示している。第1四半期時点の実績(前年同期比)は次の通り。

- 鉱工業生産 8.4%増
- 固定資本投資 20.9%増
- 小売売上高 13.6%増
- インフレ率 7.4%増
- 実質可処分所得 13.0%増

ロシア有数の証券会社であるトロイカ・ディアローグは、5月、2007年の予測値に関し、GDP成長率を当初の6.2%から7.0%、鉱工業生産高を4.5%からおよそ6.0%へと上方修正した。

ボリス・エリツィンロシア連邦初代大統領逝去

4月25日、ボリス・エリツィン前大統領が他界した。いみじくも、彼がかつて後継者として指名したプーチン大統領が在任中最後の年次教書演説を行う前日であった。世界中の人々が2人の時代を対比しつつ、ソ連崩壊以降ロシアが辿ってきた激動の時代を回想したことであろう。

ペレストロイカ時代に急進改革派の旗手として台頭し、ゴルバチョフとときに対立する一方、ロシア共和国大統領、そしてソ連崩壊と共にロシア連邦初代大統領(1992~1999年)と瞬く間に権力の座を昇りつめたエリツィン。1991年8月、旧ソ連共産党保守派のクーデター未遂事件が発生した際、ホワイトハウスの前にやって来た戦車の上に自ら立ち、世界に向けてクーデターの不当性を厳しく非難した勇姿は、我々の記憶に未だ新しい。

確かに、エリツィン時代のロシアは、あらゆる意味での混乱を脱しなかった。経済は疲弊し、物不足、賃金未払い等々、国民の不満は絶頂に達していた。それでもなお後世の歴史家は、エリツィンが言論や出版等の自由をロシアにもたらし、如何なる困難に遭遇しても、全体主義時代のソ連という過去の訣別にこだわり続けたことを高く評価するであろう。昨今のロシアでは、「主権民主主義」という言葉が叫ばれる。今後、たとえロシアが欧米と一線を画した独自の民主主義を模索することになろうとも、エリツィン初代大統領の「遺言」が何であるのか、繰り返し考え続けて欲しいものだ。

(ERINA調査研究部研究主任 伊藤庄一)

	鉱工業生産(%)				固定資本投資(%)				小売売上高(%)*				消費者物価(%)				実質平均賃金(%)			
	2003年	2004年	2005年	2006年	2003年	2004年	2005年	2006年	2003年	2004年	2005年	2006年	2003年	2004年	2005年	2006年	2003年	2004年	2005年	2006年
ロシア連邦	7.0	6.1	4.0	3.9	12.5	10.9	10.7	13.7	8.8	12.5	12.0	13.0	12.0	11.7	10.9	9.0	11.0	11.0	10.0	13.4
極東連邦管区	4.7	4.1	2.2	3.0	6.7	13.5	5.5	2.8	11.2	10	11.2	11.7	12.8	11.3	13.3	8.8	11.0	8.0	8.0	8.9
サハ共和国	2.4	13.5	6.0	0.1	7.1	8.1	25.8	1.9	25.1	2.3	1.5	8.4	11.8	10.8	12.1	11.9	6.0	6.0	6.8	6.0
沿海地方	6.7	10.1	22.3	12.1	0.2	2.4	0.0	7.7	9.7	15.6	17.8	10.7	12.8	10.8	12.4	7.1	13.0	10.0	13.0	11.0
ハバロフスク地方	9.5	0.0	0.1	11.4	10.4	1.9	1.0	4.8	6.8	8.5	13.1	13.3	15.3	13.8	13.6	8.7	13.0	7.0	3.4	5.5
アムール州	7.0	2.3	5.4	0.8	19.4	10.4	2.4	15.9	4.7	16.9	10.6	13.7	15.5	12.6	13.2	9.1	11.0	8.0	5.8	10.7
カムチャツカ州**	8.7	5.4	4.2	1.3	61.3	48.8	21.4	11.8	5.1	2.4	4.7	9.1	10.2	11.3	21.5	11.6	9.0	8.0	4.1	13.7
マガダン州	6.1	6.3	2.8	13.5	22.1	7.9	14.6	1.2	11.2	2.3	7.1	6.8	11.9	9.4	12.4	8.1	15.0	7.0	0.7	2.7
サハリン州	2.6	5.4	9.4	28.1	39.3	89.4	1.1	4.4	10.7	14.9	14.2	18.9	11.8	11.5	14.1	10.4	16.0	14.0	11.1	11.0
ユダヤ自治州	11.2	4.2	0.5	0.1	49.5	2.1倍	56.1	14.0	12.1	15.2	9.5	5.0	14.5	12.1	14.5	5.5	11.0	6.0	8.3	11.2
チュコト自治管区	4.2	6.2	16.8	11.2	72.2	2.0	10.0	34.5	3.3	6.3	1.3	6.4	17.0	11.1	15.3	11.2	9.0	5.0	7.0	1.4

(出所) 2003~2004年については『ロシア統計年鑑(2005年)』; 2005~2006年については『極東連邦管区地域の社会経済状況の基本指標(2005年版・2006年版)』(ロシア連邦国家統計庁)

*消費者物価は前年12月比; **カムチャツカ州はコリヤク自治管区を含む。